

## シミュレーションの役割

カレンシーオーバーレイでもコンピュータを駆使したシミュレーションやバックテストは有効である。目的は2つあり、1つはオーバーレイ戦略の利点と欠点を探するため。もう一つは戦略の有効性を示すためである。特に委託側から制約条件が提示されている場合にはシミュレーションは重要な役割を果たす。制約条件がパフォーマンスにどのように影響するかを示すことができるからである。ただし、その際にオーバーフィッティングと呼ばれる問題に注意しなければならない。シミュレーションの期間を短くし、運用モデルのパラメーターをコントロールすると特定の期間に限り成績の良い戦略を作り出すことができる。これをオーバーフィッティングと呼ぶ。このような状況で設定されたパラメーターを用いて実際の運営を行っても予想通りのパフォーマンスは得られないことが多い。

この問題の解決策はローリングシミュレーションを用いることである。満期5年の運用であれば、5年の運用を10年またはそれ以上の長い期間にわたり運用の開始日を少しずつずらしながら、繰り返していくことである。ローリングシミュレーションにより局所最適化が難しくなり、モデル変数はある程度の幅を持つことに成る。それと同時にオーバーレイ戦略の成績にもばらつきが出てくる。

また別の解決策として、2つのシミュレーションを行うことである。1つはモンテカルロシミュレーションのようにランダム変数を用いて為替レートの変動が正規分布のような特定の分布をする時系列データを用いる方法である。もう1つは為替レートの動きはどのような方程式を用いても再現できないと言う立場から、長期間の実際の為替レートを用いる方法である。これら二つの方法を用いてモデル変数のばらつきとオーバーレイ戦略の成績のばらつきを比べるのである。この二つを比べることで基準値からのずれがどの程度どちらの方向に向いているかを判断することができる。制約条件を多数設定していれば、幅のあるモデル変数の中から最適となる組み合わせを絞り込むことができる。また、最悪の事態がどのような形で起こるかも明確にすることができる。もしそれで満足のいく結果が得られないのであれば、もともとの目的と制約条件が合っていないか、または戦略そのものが適切でないのである。

ただし、すべての判断をシミュレーションに委ねるわけには行かない。どのような高度なモデルを使い高速のコンピュータも駆使しても、実際の為替市場を再現することは不可能である。モデルでは表現できない隙間が存在する。この隙間を別のモデルを構築して埋めようとしても埋まるわけではなく、最終的な判断はシステムトレーディングを運用しているトレーダーに委ねられていることに成る。そのためシミュレーションだけではなく実際の運用成績も判断材料となる。

絶対収益戦略のローリングシミュレーション (10年)

